



第104号 2012年3月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

主 な 内 容

聞きかじり歴史散歩 4「毛利輝元と森高政」	P4
ズームアップ 竹田仰（福岡県）	P6
萩の元気企業探訪 クオリティ・プロジェクト	P8
話題のお店 和食屋 土龍（東京都）	P10
夢追人 石東正之（萩市）	P12

中国で宋の時代（10世紀）に描かれた山水画「瀟湘八景」が日本に伝わり、「近江八景」がつくられ江戸時代後期には日本中で八景図が描かれました。

貞享2年（1685）、萩藩3代藩主・毛利吉就が「萩八景」を選ぶように命じ、三角州を中心に城下町を取り巻く水辺の景勝地が、当時と同じように親しまれ残っているのは、江戸時代の町並みが残る萩ならではの。

「倉江の帰帆、玉江の秋月、桜江の暮雪、小松江の晚鐘、上津江の晴嵐、中津江の夜雨、下津江の落雁、鶴江の夕照」。

玉江の観音堂 萩八景

田村美智子さん（椿）の「倉江の帰帆」



萩の偉人

2012年は、幕末から明治にかけて政治・経済などで活躍した萩出身者たちの節目の年を迎えます。その功績を讃える動きが、萩だけでなく各地で展開されています。

今年はこの節目の年を迎えます！



有志の皆さんが看板を設置しました

吉田松陰の妹^{いも}と結婚して、松陰の投獄後は後を託され松下村塾でも教育にあたりました。
明治維新後は、明治9年（1876）群馬県が新たに発足するとその初代県令（現在の県知事）となりました。約10年間の在任中に、県庁を高崎から前橋に移転して伝統産業の養蚕・製糸業を奨励し、また教育にも力を入れるなど、草創期の群馬県政に大きく貢献しました。県民から父母のように慕われ、群馬を去るときには、数千人が別れを惜しみ道を遮って留まることを願ったといわれています。



1829～1912年
（文政12～大正元）84歳

没後100年
群馬県政に大きく貢献した初代県令（知事）

顕彰を進める萩や群馬県の有志

素彦の誕生地がある樽屋町・今魚店町町内会では、顕彰委員会（中原正男会長）を立ち上げ、昨年12月菊ヶ浜近くに功績を紹介した看板を設置しました。萩博物館では9～10月に特別展「楫取素彦と幕末・明治の群馬」を開催します。また群馬県でも今年が、没後100年、前橋市市制施行120年、さらに萩市・前橋市友好都市提携10周年という3つの節目が重なったことを記念して、群馬県民有志による「楫取素彦顕彰会」が、胸像、顕彰板の設置を進めています。



群馬県庁裏の高浜公園にある素彦の公德碑

かとり もとひこ 楫取素彦

先達から受け継ぐ 共助の精神

今年、国連の定めた「国際協同組合年」です。この協同組合の理念を日本に初めて導入したのは、松下村塾の門下生、品川弥二郎でした。また見島には、多額の負債を「共同一致の精神」で乗り越えた歴史があります。この歴史こそ、弥二郎が押し進めた協同組合の精神であり、萩ではその理念が脈々と受け継がれています。

松下村塾には14歳の幼さで入門し、戊辰戦争では参謀となり箱館五稜郭攻略に功績を残しました。明治になり岩倉使節団に加わり欧米を視察、帰国後、初代司法大臣となり法治国家としての日本の礎を築きました。日本大学（前身は日本法律学校）・国学院大学の学祖。今年創立123年を迎える日本大学では、昨年12月、顕義の誕生地、顕義園（椿東）に



1844～1892年
（弘化元～明治25）49歳

没後120年
日本大学などを創設



田中英壽理事長（写真右）と大塚吉兵衛総長がヤマザクラを植樹しました。
顕義園は東光寺の近くにあり、日本大学が建学90周年を記念して1979年に建設しました。台座を含めると高さ3mを超える顕義の銅像があります。
また、1月2日には顕義の生涯を描いた新春テレビドラマ「知られざる幕末の志士 山田顕義」が全国のTBS系列で放映されました。

やまだ あきよし 山田顕義

海の護り観音、玉江の観音堂が修復！

特徴ある二重屋根、玉江のシンボルに地元から多額の浄財！

江戸時代から漁師町・玉江のシンボルとして親しまれてきた観音院観音堂の修復工事が終わり、周囲の景観にあったその堂々とした姿を見ることができず。

観音院は古くから「玉江観音」と呼ばれ、漁業の盛んな玉江浦では海の護り観音として崇められる、中国三十三観音霊場の一つ。寺の創建は不明ですが、室町時代には再興されています。

観音堂は2度の類焼後、江戸時代後期に再建されたと伝えられ、萩八景の一つ「玉江秋月」として八江萩名所図画に描かれていま

す。その特徴ある二重屋根は、周囲の土塀や灯籠、背後の丘陵の緑や前面の海とよく調和し、萩市の景観重要建造物、歴史的風致形成建造物にも指定されています。

しかし、長年の風雨により老朽化が進んだため、2年前から、全体を工事用ネットですっぽりと覆い、柱や梁など部材の取り替えや補修、屋根瓦の葺き替えなどの工事が行われました。

総工事費約1億1580万円のうち、萩市と国が各3860万円を負担。残りの観音院の負担金3860万円には、檀

家さんや地元の玉江浦・倉江地区等の皆さんからの浄財が充てられました。観音院主催の落慶式は10月21日（日）の予定です。

修理が完了した観音堂のその姿は、玉江浦地区に藩政時代から続くといわれる伝統の和船競漕「おしくらごう」（毎年6月）とともに、地域の皆さんに愛され続けることでしょう。



ひと際高い所に建ち、海の護り観音として信仰されてきました



おしくらごうを見守る観音堂(修復前)

国連の国際協同組合年

産業組合設立の功労者

品川 弥二郎



1843～1900年
(天保14～明治33) 58歳

15歳のとき松下村塾に入り、当初から松陰にその才を愛され、大変期待されました。

維新後は、ドイツを中心とした欧州に派遣され、協同組合について学びました。帰国後、産業組合法の立法に奔走、大日本農会（現在の農協の前身）など産業団体結成に尽力し、「協同組合の父」と

称されています。

「国際協同組合年」にちなみ、日本への協同組合導入に尽くした弥二郎の生涯を描く下関市在住の直木賞作家、古川薫の小説「志士品川弥二郎の風雪」が、山口新聞で1月から毎週日曜日に連載されています。

弥二郎が祀られていた品川神社

松陰神社境内に勸学堂といわれる御堂があります。この御堂は元々、弥二郎の生誕地（船津）の品川神社にありました。松下村塾の開設日にちなみ、毎年11月に勸学堂祭が行われています。

見島に伝わる「共同一致の精神」

今から100年前の明治45年（1912）3月、見島住民の皆さんは共同負債を完済しました。現在価値に換算すれば50億円を超える多額の負債。見島では今なおその苦節を乗り越えた「共同一致の精神」が語り継がれています。

◎苦難の誇るべき歴史

明治7～16年（1874～83）、見島は干ばつ、冷害等に見舞われ、島民は生存すら困難な状態に



元は弥二郎が祀られていた勸学堂(松陰神社内)

陥りました（明治10年の米の収穫高は1142石でしたが、14年はそのわずか3%の31石）。そのため、萩の商人や銀行からの借金や利子が18万円となり（現在の金額で50億円を超える）、家や田などすべてを手放す寸前となりました。13年の歳月をかけ、一切の娯楽（祭りなどの行事、酒、鬼ようず）を禁止し、儉約に儉約を重ね、島民の共同一致の努力で見事に完済した苦難克服の誇るべき歴史です。

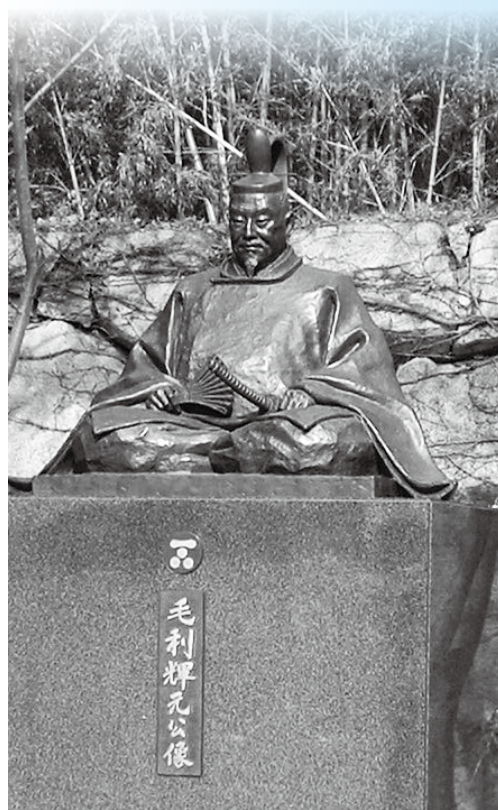
◎今も歌い継がれる歌と踊り

償還を記念して作られた「共同一致の歌」に、見島小学校の先生が踊りの振り付けをしました。今でも島のふるさとまつりで子どもたちが歌や踊りを披露し、先人の思いが生き続けています。

見島共同一致の歌（1番）

嗚呼喜ばし あなうれし
多年の苦心 甲斐ありて
巨額の共同 負債をも
償還せしこそ 愉快なれ

毛利輝元と森高政



2004年、萩開府400年の年に寄付により建立

「萩藩と九州の佐伯藩の藩主はどちらも毛利氏だが、どういう関係なのだろう」

萩に住んでずっと気になり、知友の幾人かに問いかけましたが、皆口を揃えて「関係ないですよ」とツレナイ。旧友の会でもこの話をしていたところ、先頃その一人から「君の疑問の糸口が『徳川実記』にあるよ」と知らせてくれました。

それには「天正10年6月、羽柴秀吉と毛利輝元と和睦のとき、高政は毛利への人質に参りけるに、輝元その苗字唱ふところ同じきにより、我が苗字を授け永く兄弟の契り結ばんとありければ、これより森の字をあらためて毛利と称す」と書かれていました。

これは面白い。天正10年というと西暦1582年、関が原の戦いの18年前になります。早速、織田信長、羽柴秀吉、毛利輝元、中国攻めなどをキーワードに図書館の

蔵書を乱読しますと、概要次のような物語が浮かび上がりました。

今から430年ばかり歴史を遡って天正5年（1577）に思いを馳せてみてください。時は戦国時代、天下統一に向けて激しく動いていた織田信長は、西国の雄・毛利輝元を討つため、羽柴秀吉を総大将に第一次中国攻めを行いました。その秀吉軍の中に森高政がいました。

秀吉軍は、明石、姫路と難なく落して駒を進め、三木城攻めに取り掛かりました。しかし、三木城城主・別所長治は、毛利軍からの兵糧支援を受けて籠城策を採り、強い抵抗を示しました。攻めあぐねた秀吉は森高政に攻略を命じます。高政は、正面攻撃をやめて毛利軍からの兵糧の供給を遮断する包圍網作戦に転じました。これが奏効し遂に三木城は落城します。

「三木の干攻め」と呼ばれたこの戦法は、高政の知略と不戦・勝利の方策を示し、秀吉の「覚えめでたし」を得ました。

また、毛利輝元に森高政の存在を強く印象付けました。

時は移って天正10年（1582）3月、秀吉は信長の命で再び毛利攻めの総大将として出陣し、備中高松城に差し掛かりました。高松城は、三方を山に囲まれ、前を沼地が覆う天然の要害でした。秀吉は、高松城の前に長堤を造り、横の足守川の水を流し込んで高松城を湖に浮かぶ孤城にする作戦に出ました。

その実質指揮者が森高政でした。森一族の出身地、近江国森村は、土木技術集団の住処として知られ、石積みや土塁による築堤は得意でした。高政隊の技術力は、この途方もない計画を現実のものとして

成功させます。毛利側の毛利、吉川、小早川の援軍は、にわかに出した川と湖をはさんで秀吉軍と対峙するばかりでした。

事態に変化が起きたのは、6月です。6月2日未明、あの「本能寺の変」が起きます。

秀吉軍は、この変を隠したまま和議の交渉を急ぎました。毛利軍に対して領土割譲の条件を取り下げて、高松城主・清水宗治の切腹で事を収めるという約定で和議を整えました。

これは、秀吉が一刻も早く京に引き返して、主君信長の仇を討つことを急いでいたからです。いわゆる秀吉の「中国大返し」です。秀吉は、事の成否は毛利方に差し出す人質の双肩にかかると判断します。本能寺の変は、遅かれ早かれ毛利方に知れます。その時毛利方に追討をさせぬよう説得する力、追討になった場合でも、その足止め策が出来るか否かが重要です。

秀吉は森高政に人質役を命じました。

高政は、もしも追討がかかったときは、自らの手で堤を決壊させ追討軍を防御出来るよう仕掛けた後、毛利方に出向きます。毛利方の人質は小早川秀包ひでかねでした。輝元の叔父、小早川隆景の養子です。こうして6月6日秀吉は、全軍を引き上げます。

前物語が長くなりましたが、本筋はここからです。

毛利輝元方の人質になった森高政は、輝元に拝謁します。輝元は、高政が武勇、知略に優れていること、また秀吉が高政を可愛がっていることを聞き及んでいましたから、実際に高政を引見してその人柄に得心し気に入ります。

輝元は、「言葉で唱えれば毛利も森も同じ、そなたも毛利を名乗って兄弟の契りを結ぼう」と問

いかけます。輝元30歳、高政24歳でした。輝元の申し出は、自分を認めてもらったという点で高政にとって誉れでしたが、一方改名は輝元への従属をも意味し、複雑な心境だったと思われます。しかし、高政には「中国大返し」を成功させ主君を守る事が最大の使命でしたから、輝元の申し入れを躊躇無く受け入れ、義兄弟の契りを結びました。

この時、毛利輝元は、人質の高政に「兄弟となつた今、人質として留め置くことは理にかなわぬ。早々に自陣へ帰参せよ」と温情を示しました。輝元の厚意を受けた高政は「秀吉様は必ずや天下人となりますれば、そのときは兄上様を重臣としてお迎えに参じます」と答えたという逸話が残っています。秀吉の時代、実際輝元は大老職で遇されました。このことに高政が関わっていたかは判りませんが。

そんなことで、毛利輝元と森高政は義兄弟となり、同じ毛利家を名乗ることになったのですが、読者の皆さんはお認めになりますか。出来すぎた話のようにも感じ、念のため「国史大系」を繰って徳川実記のそのくだりを押さえて「佐伯市史」を取り寄せて確認したりもしましたが、徳川実記を底本にした同様の記述でした。

毛利高政は、徳川の世でも義と誠実を貫き明治維新まで佐伯藩を守り通しました。毛利輝元が、人質と義兄弟の契りを結ぶという政治性やその心情には、また別の感慨が浮かびます。

命を賭して戦う殺伐とした戦国時代の方が、平和を貪る現代よりも「義」や「信」を大切に生きる」という生き様がしつかり根付いていたのかもしれない。

(高木正熙 エッセイスト 日本ペンクラブ会員)

参考——「国史大系」(吉川弘文館)
「佐伯市史」(市史編纂委員会)
「佐伯藩」(宮明邦夫「信長戦記」(志村有弘「信長」(秋山駿)

三木夫妻(国道191号
長浜パーキングにて)



阿武町

東京アート(株)
代表取締役会長

みき まさいち
三木正市さん

(阿武町福賀出身、73歳)



町づくりについて話し合う年頭の交流会「平成24年新春懇話会」が1月31日町民センターで開催され、エルメスなどの高級パッケージジメーカー東京アート(株)代表取締役会長の三木正市さんが「生命を紡いで明日への飛躍」水ビジネスで未来へ貢献」というテーマで講演されました。

三木さんは阿武町福賀の出身。早くにご両親を亡くされ、働きながら夜学に通おうと、18歳で大阪の大手パッケージ会社に就職。営業から経理まで幅広い仕事を経験

し、30代で事業部長に就任、将来を嘱望されている中、38歳の時に独立。昭和51年に東京アートパッケージ(現・東京アート(株))を社員5人で設立。高級アパレルメーカーのパッケージに特化した戦略で、他社と差別化を図り年間売上高100億円を超える一流企業に育てて来られました。

ミネラルウォーター事業に進出

現在最も力を入れているのがミネラルウォーター事業。商品は「日本一の水」と惚れ込んだ、長野県安曇野の湧水。品質と宅配サービスで差別化を図ります。将来の目標は、中国と日本で年間40億本の売り上げ。人間は、水なしでは生きられない。将来世界人口は3倍に、水の使用は6倍になる。中国の富裕層をターゲットに売ってきたいとの戦略です。

パッケージは歩く広告塔

街なかで目に触れる機会が非常に多い「パッケージは歩く広告塔」(第3の広告媒体)が、会社のコンセプト。

「我々の袋(パッケージ)はものを包むことはもちろん、ブランド商品の価値をいかに高めるかが勝負」。取引先にはエルメス、ワールド、ビームス、ユニクロなど

故郷(阿武町)へ

「私は故郷を忘れたことはない。故郷福賀の人口は、50年前の3000人から5分の1の約600人になっている。故郷が未来に向けて成長して欲しい」、「何ができるかわからないが、何かお役に立ちたいと思っています」と故郷への思いを語りました。



エルメスなど高級ブランドを扱います



投影装置(5面に3D映像を提示する装置)

1辺2.5mの円偏光スクリーン(透過式4、反射式1)



平成17年に母校に帰り、わが後輩たちに情報理論など教えながら、頭が回らず計算間違いなどしでかして恥をかきながらマイペースで過ごしておりました。ところが、昨年4月に神の試練か、降って湧いたように次々と新しい仕事が始まりました。バーチャルリアリティ(VR)学会の会誌委員長となり、新しい誌面作りを始めました。女性研究者を編集委員にいられて特集号に「VRと美容」などの話題を盛り込みました。ヒューマ

定年間に慌ただしく



竹田 仰さん

(萩市江向出身、福岡市在住、
萩高校昭和42年卒19期、63歳)

九州大学総合研究博物館館長
九州大学大学院教授

インインタフェース学会からは、九州で大会をしたことがないので大会長を頼まれ、この9月に500〜700人の会員を迎え、講習会、特別講演を行います。

さらに九大博物館の館長に就任し、国立大学の博物館等協議会の大会長、館の教授人事、学芸員養成課程の単位増加などで申請手続き。九大百年での特別企画で動物骨、人骨、昆虫、博多古地図などの展示。さらに、学部からは私の後任人事に奔走し女性の准教授を選定しました。

わが研究と萩高との係わりについて

バーチャルリアリティ(VR)の研究をしています。一辺が2.5mのスクリーンで囲まれた立方体の中に入り、全面に3D映像が映し出され、メガネを掛けると、あたかも海の中にいたり、果てしなく広がる草原にいたりします。魚や鳥が自分のすぐ横を勢いよく通り過ぎると思わず避けようと身をかわします。このような装置を使って脳機能や映像酔いの研究をして来ました。しかし、いくら映像と音が迫っても肌に感じる風圧や衝撃がありません。そこで、コンピュータで制御できる空気砲を開発し、多数並べてコンテナに合せて顔面に空気玉が飛んで来るような工夫をしています。このVR

技術を理科教育に使い、興味を持たせ空間認知などを体感させるため、高校に大型スクリーンを持ち込み実証研究を始めました。

これがきっかけで萩高に高校・大学連携として理科クラスのアドバイスや研究のことをお話しすることが始まりました。生徒のみなさんは、夏休みに課題を自ら考えてチームで協力して観察・実験・データ採取・評価・考察を行って、それをまとめて発表を行っていました。きつとこれから大学に進学したり、会社就職したときにその取り組みは大いに役立つと思います。

萩の思い出

母(竹田愛子)は昭和18年に京都から萩に来て、以来人生の大半を国語教員として萩高で過ごしました。学校に行っては、ガリ版印刷の紙めくりなどの手伝いをしていたので、萩高に入っても既に知っている先生も多々おられ、品行方正に思っていました。バレーボールを体育館で蹴って天井板にきれいな丸い穴が空き、事務室で謝った記憶があります。また、放送部だったので昼休みにマリリン・モンローの「帰らざる河」など好きな曲を教室に流して随分好き勝手をしました。

■プロフィール

昭和23年生まれ。光塩初等科、一中、萩を経て、47年九州芸術工科大学音響設計学科(第1期)卒業。10年間九州松下電器(株)開発研究所に勤務してオーディオ機器など開発し、海外特許や新案、意匠登録など数十件出願登録。昭和57年長崎総合科学大学助手として採用され、同大学教授となり、平成16年ベンチャー企業(有)インフォアピオを起し、愛知万博に屏風型3Dスクリーンを出展する。平成17年九州大学芸術工学研究院教授。現在、九州大学総合研究博物館館長、日本バーチャルリアリティ学会理事、フェロー、会誌委員長。工学博士。



萩高校玄関に掲げてある「仰止」の額

藩政時代に明倫館の聖廟に掲げてあり、明治3年、萩明倫館を萩中学と改称した時に引き継いだ。文字は詩経の「高山仰止景行々止」からとったもの。

いますが、わが名前の一字があるので、昔からこれを見ると厳かな気持ちになっていました。萩の歴代の先輩たちを仰止して勉学に運動に創作活動に励み、よき伝統を守り育てることが大切と思うこの頃です。

ふ るさと萩と
ゆかりの人々

バンドネオン奏者 小松亮太さんが 萩で里帰り公演

12月18日、萩市民館大ホールで、バンドネオン奏者小松亮太さんの「小松亮太ミッドラスト・タンゴ・センセーションズ」萩公演が開催されました。

コンサートでは、ピアソラのリベルタンゴや五重奏のための協奏曲などが演奏され、多くの来場者で埋め尽くされた会場は、バンドネオンの独特な音色の響きと、力強い演奏で熱気に包まれました。

小松さんは自身のブログで「嘘なし、気取りなし、手抜きなしの本

気コンサートができた」と報告しています。

今回の萩公演は、全国ツアーの一環で行われましたが、実は小松さんと萩にはゆかりがあり、小松さんの妻でバンドメンバーでもある近藤久美子さん（ヴァイオリン奏者）の父・修二さんの故郷が萩市でした。

近藤修二さん（萩市江向出身）は、1956（昭和31）年萩高校卒、早稲田大学政経学部を卒業後は東京に居住、一昨年に亡くなりました。修二さんのいとこ、松陰神社至誠館館長の近藤隆彦さんは、「ふるさと萩を懐かしがって、よく墓参りに帰っていました。生きていたら、娘（久美子）さんの里帰り公演を喜んででしょう」と残念がっています。

公演翌日には、近藤隆彦さんの案内で松下村塾を訪れ、「こんな小さな小屋みたいな場所から明治維新のヒーロー達が生まれました」と感激されました。

菊屋横町での小松さんと妻の近藤久美子さん

小松亮太
with
ラストタンゴセンセーションズ



シリーズ2

萩を歌いませんか

前回の1月号で、萩の歌（吉田松陰、萩の賑い）をご紹介したところ、「他にも萩ゆかりの曲があるので、ぜひ紹介してください」とのお便りをいただき、リクエストに応じて萩の歌をシリーズでご紹介します。萩の歌を皆さんの歌声で広げてください。

譲二の2月発売の最新曲

「長門峡」

歌：山本譲二、作詞：坂口照幸、作曲：弦哲也（2012年）

下関市出身で、山口ふるさと大使を務める演歌歌手の山本譲二さんが、震災であらためて見つめ直されている人の絆をテーマにした新曲「こころの絆」と、カップリング曲として山口県の名勝を題材にした旅情演歌「長門峡」を2月に発売しました。

譲二さんは、演歌界の大御所・北島三郎さんの付き人として修行



し、1980年、東北が舞台の「みちのくひとり旅」で大ブレイク。

「長門峡」には、子どものころに両親と訪れたこともあり、不器用だけど自分の生きる道はこの道しかないという決意や、故郷への思いがこめられているという一曲です。

「長門峡」

春まだ寒い 長門峡よ
降り立つ風の 無人駅
清く流れる 川瀬淵
不器用ゆえに 一つ道
ほかの道では 生きられないと
俺は誓って ここに立つ

譲二が幕末の志士・晋作を歌う

「高杉晋作」

歌：山本譲二、作詞：作曲：津島一郎（2007年）

山本譲二さんが高杉晋作を歌った一曲。歌詞がなぜか「玄界灘」で始まるこの歌、昨年12月に発売されたアルバム「山本譲二大全集」に収録されています。

「高杉晋作」

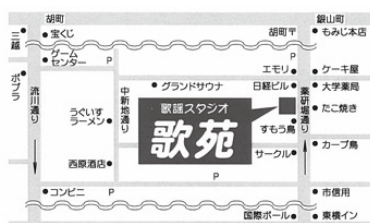
玄海灘に 時ながれ
薫風おくる 花ひとつ
その名は高杉 長州の
松下村塾 双壁で
思想かかげた ありし日に

歌謡スタジオ「歌苑」で 萩を歌いませんか

お便りをいただいたのは、広島市で歌謡スタジオを営んでいる鬼村博さん（萩商工機械科昭和39年卒）。

「歌苑」は、広島市内の飲食街の中心地、薬研堀にあり、収容人数は約40人。カラオケの全国最大手、DAMやUGAなど最新機を導入した抜群の音響と、歌手の気分を味わえるステージが自慢です。また飲み放題や歌い放題プランもある、飲んで歌える楽しいお店。

広島カープと萩の応援が大好きという鬼村さんは、広島から萩の魅力を発信しようと金太郎を萩から仕入れ、お客さんに振る舞っているとのこと。「萩商工の校歌もカラオケに入っています。山口県人会の皆さんの十八番は尾形大作の吉田松陰ですね。広島においての際はぜひ」と、萩つながりの皆さんのご来店を楽しみにしています。



■歌謡スタジオ「歌苑」▷住所 広島市中区薬研堀6-2ライトハウスB-5階(広電胡町駅から徒歩約300m) ☎082・545・3422 ▷営業時間 午後1時～深夜0時(土・日曜日、祝日は夜6時～)

クオリティプロジェクト

萩の詰め合わせをプロデュース



左から大田忠男さん・井上伊三郎社長・崔美由紀さん・三好孝史さん

市内醤油醸造所4社の商品を詰め合わせた「萩のさしみ醤油くらべ」と、市内6社の蒲鉾屋さんの蒲鉾を詰め合わせた「萩の焼きぬき蒲鉾詰め合わせ」（期間限定販売）を昨年末リリースし、今までは無かった。萩の詰め合わせをプロデュースしたクオリティプロジェクト（以下QP）の発起メンバー、井上伊三郎さん、大田忠男さん、崔美由紀さん、三好孝史さんに、お話を聞きました。

ゼロベース

発起人は井上商店代表取締役の井上社長。井上商店は、海産物を全国に販売して業績を上げてきた企業。その根底はやはり萩という自然豊かな地場はもちろん、地元の方々からのご支援、ご愛顧があるからこそ成り立っているもので、その恩恵に恩返ししたい。また、萩を想う一市民として萩の活性化

のために何が必要かと考えると、限られた企業だけではなく、萩全体が勢いづく必要がある。そのため何ができるのかと模索していたとき、3・11東日本大震災がこの国を襲い、被災地の生活形態は崩れ去り、日本中が悲しみと不安に覆われました。

しかし、生き残った被災者の皆さんは多くのものを失ったのにも関わらず、更には国からの支援が滞っている中、自らの力で再生に向けてゼロから立ち上がろうとされていきました。被災地から離れ、生活形態に影響を受けなかったこの萩だからこそ日本を再生する力にならなくては、そのためにはまず地域の活性に向けて、行政の助けを借りるのではなく、ゼロベースで民間より動きださなければと、翌4月にQPをスタートさせたのです。

掘り下げる

スタート時は正に暗中模索で、何をしたら良いのか見えてこず、萩という町の特性を掘り起こす作業から始めました。そして徐々に見えてきたのは、萩には地元消費が主な優良な商品があり、それを作るプロがいるが、外に向けての販路が乏しい。事業所が大手企業並みであれば販路拡大のための部署を各々設立するのでしょうか、

アクセスの悪さから販路拡大にかけるコストは高くなり、そこまでは手をとかなければならない。また、外とのつながりがないから大きな市場のニーズが見えてこない。同業種のホットな情報を手に入れる機会がない、各々が必死にやっているけど大きな経済の輪の中に入り込めない状況がありました。

そこに、井上商店が長年かけて築いてきた販路や流通のノウハウを、またマーケティングや製造管理のノウハウを、地域の事業所が平等に、有効に使うことができたなら、企業と同等の力を得ることができ、今までになかった「地域で和をもつて商売をする」ということが可能になるのではないかと考えたのです。

創造

そのような理念のもと、アクションを起こしていくうちに、地元の企業、事業者が少しずつ集まり、また外とのつながりも徐々に生まれ、新しいアイデア、新しいアクション、今までになかった環境ができつつあります。そうして幾つかのジャンルを並行して進めていく中、昨年末、第1弾として「萩のさしみ醤油味くらべ」を、第2弾に「萩の焼きぬき蒲鉾詰め合わせ」をリリースすることができました。

同業者の製品をパッケージしたことで、消費者への話題性はもちろん、今までになかった同業者間、異業者間の交流も生まれつつあります。また、今まで自社の社員でしかできなかったモニタリングが、各社集まることで、より多くの意見が聞けるようになり、新しい発想、商品開発、商品戦略につながっています。

感謝、尊敬の念をもって和を成す

現在、QPは井上商店がフラッグシップとなり、そのもとでアクションを起こしていますが、その理念・コンセプトが浸透し、萩の質は高いが小さい一つひとつの力が集結し、大きな力を生むことができれば、今までの萩になかった地域のプラットホームの役割を担うことができ、更なる質の向上へとつながるのではないかと考えています。

商売道の根底である感謝の気持ちをもつて、お互いを尊敬しあい和を成す。本来あるべき地域の公共性を行政主導から民間主導へ。地産地消だけでなく地産外商へ。それを実現するためには、理論・理想を掲げるより、まずは実績・成功例を作ることで心を得ています。行政からの補助制度を使わないこともコンセプトなので、いき

椿西小卒業生思い出の カイヅカイブキを移植



陽会長と山中さん

旧椿西小学校跡地に植えられていたカイヅカイブキの木が、1月27日・28日の2日間で現在の校舎（市民体育館ウラ）のグラウンドに移植され、かつてと同じように校庭の子ども達を見守っています。

この木は高さ約6m、樹齢70～80年で、以前は旧校舎西門のすぐ側に植えられ、木登りをしたり、大きく伸びた枝の下で休憩する子ども達の姿でいつも賑わっていました。「旧小学校を象徴する面影

がなにもなくなった」という卒業生や地域の方々の声を受け、木を移植するプロジェクトを立ち上げたのが同窓会会長である陽信孝さん（金谷天満宮宮司）と役員の中 中信助さんでした。

陽会長（椿西小昭和26年卒、73歳）は、「いろいろな人の力添えでようやく皆の願いが叶い、本当にうれしい。今の椿西小学校の子ども達にもたくさん木に登ってもらい、遊びや体力作りの原点となればと願う」また、山中さん（29年卒、70歳）は、「後輩達に母校の伝統や誇りを受け継いでいくことに意味がある」と述べられました。

カイヅカイブキの木も旧椿西小の卒業生（約1950人）との再会を楽しみにしているでしょう。



内田青虹さん（東京都在住）が 松陰を描いた日本画を萩高校へ寄贈



「立志前進」

萩市橋本町出身の日本画家内田青虹さん（本名 恵美子、萩高28年卒、77歳）が昨年12月、吉田松陰を描いた日本画を母校の萩高校へ寄贈されました。萩高校本館の正面玄関を入ってすぐ左側に展示されており、その力強さに生徒や来校者の目を引きつけています。

この日本画は松陰の「外国に出て学びたい」という力強い志が表

現されたもので、「立志前進」と題されています。「自分の将来を考える帰路に立つ感受性豊かな高校生へ、萩から日本を動かした松陰先生や若い志士たちの志を感じ、その思いをぜひ受け継いでもらいたい」という内田さんの願いが込められています。

内田さんは、平成13年にも萩高校へ日本画「今昔様変わり夢幻の如し」を寄贈しているほか、平成21年に松陰神社内に完成した至誠館へ松陰先生の肖像画を奉納されています。



萩のかまぼこ醤油
315円



萩やきめき蒲鉾詰め合わせ
(年未限定)



萩のさしみ醤油味くらべ
ミニボトル詰め合わせ 各 1,260円

萩の老舗ミヨシノ謹製。
コクのあるかまぼこ醤油

矢次蒲鉾店「萩甚」 河村蒲鉾店「萩の幸」
高井蒲鉾「萩殿さま」 三好蒲鉾「龍王」
村田蒲鉾店「村四郎」 忠小兵衛蒲鉾本店「秀白」

A セット 岡田味噌醤油「醬々(しょうしょう)」
ミヨシノ醤油「萩のさしみ醤油」
井上商店「白身魚に合う刺身醤油」

B セット 松美屋醤油「殿さましょうゆ」
あぶらんど萩「維新」
井上商店「白身魚に合う刺身醤油」

☆ABセット3名様にプレゼント！

◎クオリティプロジェクト

住所：山口県萩市東浜崎町9-1（株式会社井上商店内）

☎0838・21・7688（担当：崔 美由紀）

※現在発売中の「萩のさしみ醤油味くらべ」は井上商店のHPから購入可能。井上商店HP <http://www.hagiinoue.co.jp/>

なり大きな力を生むことはできませんが、集まっていたいた皆さんと共に、地域の活性、日本の再

生への一助となるように、頭を使い、汗をかき、一つひとつ実績を積み上げていきたいと思っています。

西麻布

和食屋



オーナーシェフの高倉豊和さん(29歳)



刺身は朝獲れた金太郎とカワハギ (ウマズラハギ)



地下鉄六本木駅から六本木通りを西麻布へ向かい徒歩5分。見覚えのある赤い魚「金太郎」をはじめ、萩の魚が描かれた看板を目印に、まさに「もぐら」のように地下に潜っていくと、創作和風料理店「土龍(もぐら)」にたどり着く。

内装はモダン和風の仕上げ、カウンターとテーブルが4つのこぢんまりとした店内。20人くらいで満席だ。

福岡出身の若いご主人高倉豊和さん(29歳)が、厨房を所せましと駆け巡っている。

この魚はすべて萩産。萩でその日本揚げされた魚を空輸、市場から6時間ほどで届く。

今日萩から届いたのは、金太郎、ウマズラハギ、サワラ、ぼてこ(かさご)、スズキにタコ、鮮度・脂の乗りは申し分なく、東京にいながらふるさと萩の味を楽しめ至福のひとつを感じることができ。

◆オーナーの高倉さんに聞く

お店について

ここは2010年の10月、僕が独立して最初のお店としてオープンしました。それまでは、フレンチのお店で修行をしていました。萩の新鮮な魚を使うので、萩市出身・山口県出身のお客様も多く常連になっていただいています。

萩の魚を使うようになったきっかけは？

元オーナーの友人が萩市の出身で「萩の魚はおいしいよ」と勧めてくれました。実際食べてみると、とにかく「おいしい」。脂ののりや風味など最高で即決でした(笑)。また、毎日、萩の市場から朝獲れを空輸してもらっていますから、鮮度は抜群です。お店でもお刺身が一番人気です。魚種も意外に豊富で、一年中、旬の魚が楽しめますね。

あと、何といってもネーミングがおもしろいですよね。地方名ですけれど「金太郎」や「ぼてこ」、「よこわ」など、お客さんの反応も良く、「金太郎? かわいい!」なんて会話がはずみます。

今後どういったお店にしていきたいですか？

都内60店舗!! もぐら増殖!!...なんて冗談ですけど(笑)。

まずは日本の中心・東京でしっかりお客様に満足していただける料理を作っていきたいですね。

魚のお供であるお酒も萩の「東洋美人」(澄川酒造)や「長陽福娘」(岩崎酒造)をはじめ、「獺祭(だっさい)」や「貴」、「雁木」など山口県の名酒が並ぶ。

野菜は「とし子ばあちゃん」の魂の野菜、高倉さんの地元福岡県の小石原で祖母が作る自家製野菜を使い、器も地元の小石原焼を使っている。高倉さんはこれから萩焼や萩ガラスも使ってみてと話す。

ランチも好評です。おすすめは950円の「気まぐれ定食」、ここでも萩の魚がメインディッシュだ。夜のコースは4000円から。

(特派員 中村浩二)

■和食屋 土龍(もぐら)

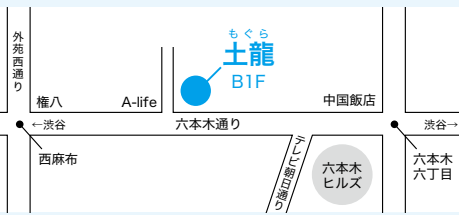
営業時間: 昼11:50~14:30
夜18:00~23:00

定休日: 日曜・祝日

住所: 東京都港区西麻布1-2-13 デュオ・スカール西麻布タワーセントラルB1F

TEL/FAX: 03-6804-1205

URL: <http://www.mogura-nishiazabu.com/shop.html>



土龍さんからの特別サービス!

「萩ネットワークを見た!」で、何とお会計 **10%OFF!** 是非、ご利用ください!

AERA 日本を立て直す100人

アエラ

朝日新聞出版が発行する週刊誌「AERA」(2012年1月2・9日合併号)に、萩博物館主任研究員の堀成夫さん(40歳)が、「日本を立て直す100人」に選ばれました。



夏の企画展に向け準備中

この企画では「日本が牽引する」「日本を拓く」等にジャンル分けされ、堀さんは「日本を整える」のジャンルで、少子高齢化や格差社会など、今の日本が抱える問題に自ら立ち向かい、社会を変えようとしている若者の一人として、全国最年少で知事に就任した鈴木英敬三重県知事(37歳)や行政の無駄をゼロにするという公約を掲げた仲川元庸奈良市長(35歳)らとともに紹介されています。

堀さんは萩博物館で毎年恒例となった夏の企画展を担当し、自身が考案したキャラクターに扮して企画展を盛り上げています。

2007年(平成19)から始まったこの企画展、博物館の企画展は通常2か月間で1万人入場すれば成功とされる中、毎年2万人以上の入場者を集め、2010年(平成22)の「UMAとの遭遇」では萩市の人口を1万人以上も上回る約6万7000人が入場。脅威の集客力を誇り、全国の関係者から注目を集めています。

「博物館の敷居を低くし、気軽にテーマパークに行くような感覚で子どもや親子連れに来てもらいたい」と堀さん。子どもたちに興味を持ってもらうため、展示にはいつもストーリーを持たせてあり、昨年の企画展はクジラがテーマ。童話「ピノキオ」をアレンジし、伝説のクジラキングを探し出

すという体験型の展示で、聴覚・嗅覚・味覚を含めた五感で楽しめる内容で、限られたスペースを有効に使うための工夫や、限られた予算の中で入場客に驚きや感動を感じてもらうための工夫が随所に凝らされていました。

小学4年のときに萩の倉江の浜辺で拾ったサクラ貝の美しさに惹かれたのが活動の原点。「さまざまな色と形の貝を想像するだけでワクワクし、故郷に誇りを感じた。そんな気持ちを子どもたちに伝えたい」。

今年の企画展

7月7日～9月9日

今夏の企画展は「危険生物」がテーマの「最恐! 危険生物アドベンチャー」。テレビや雑誌などで見たことがあるような世界の生物や萩にもいる危険生物を取り上げ、夏休み期間中の開催です。「夏のシリーズの中でも一押し自信作、見に来たくなるような企画展です」

プロフィール

1971年(昭和46)生まれ。萩高校89年(平成元)卒。東京水産大学(現・東京海洋大学)、同大学院を卒業後、科学技術振興事業団研究員などを経て2004年(平成16)萩博物館研究員

萩市出身の刀祢健太郎さん(22歳)



箱根路を疾走!

萩西中学校卒の刀祢健太郎さん(浜崎新町出身、東海大学4年生)が、1月2、3日に行われた「第88回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)」に出場しました。刀祢さんは初日の往路第3区を走り、区間9位所属する東海大学は総合12位でした。

刀祢さんは、萩西中(平成17年卒)・西京高校時代から全国大会に出場する等活躍してきました。大学入学後も、1年の時から4年連続で箱根駅伝を走り、ハーフマラソンにも挑戦しています。

にもテレビで刀祢さんの勇姿が見られるかもしれません。就職先について「世界で戦う有名な選手が所属しているが、これからは若手中心のチームになつていくと思うので、その中で自分も活躍できるようにしていきたい。将来はマラソンに挑戦したい」と意気込みを語りました。萩から世界に挑戦しようとする若者の今後の活躍に注目です。



現在4年生。春からは、これまでオリンピック選手等を多く輩出し、毎年元日に行われるニューイヤーズ駅伝(TBS系列で生中継)の常連である中国電力に就職します。来年のお正月

▷都道府県駅伝(1月22日)で山口県チームのアンカーを務める(中国新聞より)

▷約半ページにわたって紹介

萩商工高等学校 ラグビー部顧問

せきとう まさゆき

石東 正之 さん (48歳、大津高卒)



赴任先で学んできたこと

ようになりまして。入学して1か月半、他のメンバーが先生の熱意を受け入れ入部してしまうと、私は放課後つるむ友達がいなくなり、結局私もラグビー部に入ることになったのです。

指導者になることを決めたのは高校3年時。当時、法政大学の推薦入学がほぼ決まっていたのですが、法政大学に入学し、卒業後何をしているのかイメージが湧かず、父と話し合い、教師としてラグビー指導者になるため、日本体育大学に進学することを決めたのです。

教員となり最初の赴任先は田布施養護学校。この学校での3年間は、若い指導者にありがちな「何でこんなこともできんのか?」という考えを無くし、色々な子どもがいて、それぞれに個性があるのだと、指導者として大切なことを学ばせてもらった時間でした。その後山口農業高校に転任。ラグビー部だけでなく学校全体が荒れに荒れていました。部員には暴走族の子もいましたが、当時のやんちゃな子たちは熱い心を持った子どもが多く、私が本気でぶつかっていたと、あっさりと同調し、赴任した年でききなり県ベスト4まで行くチームとなりました。次にコーチとして赴任した大津高校での5

指導理念

年間は、常に萩工業を意識する5年間でした。当時、勢いは確実に大津より萩工業の方があり、大津の常勝を途切れさせすわけにはいかないというプレッシャーがあったと思います。

そして13年前に萩工業に赴任。9年間のコーチ時代には、前任の監督の先生から「どうしたら生徒の気持ちに乗れるのか?どうしたら生徒が信頼してくれるのか?」などを学ばせてもらいました。生徒と指導者が同じような考えや志を持って練習や日常生活に取り組み、指導者主導だけではダメで、生徒任せだけでもダメ。基本的に、その関係はニュートラルだが、場面によっては指導者主導に近づき、時期によっては生徒の自主性に委ねたりする。その時その時の生徒の精神面を見定めながら気にかけてながら、そのバランスを取る。表現するのは難しいですが、指導者に言われさせられているけど、その必要性を生徒自身が感じ自発的なものでもある。そのような環境が県内初の10年連続花園出場を成し遂げたのではないかと思います。

リスタート

昨年は、ラグビー部で10年連続をかけて戦い、山口国体では県のチームを率いて戦い、二つを追い

求めると二つとも成し遂げることができないのではないかと悩みなが、正に怒涛の一年を過ごしました。そのため全国大会を終えたあとには、今までにない脱力感というか、燃え尽き症候群的なものがあり、ラグビーとの距離を少し空けようと思ったほどでした。しかし、何か一つ終わるというのは、同時に新たなスタートであり、新チームで動き出さないとはいけません。

現在ラグビーの顧問として抱えている一番の問題は部員の確保。ラグビー部として、まともな練習をしようと思えば最低35人から40人の部員が必要です。工業から商工となり男子クラスは一学年たった2クラスとなり、ラグビー部に入りたいと思って受験するが受からないという工業時代には無かった状況も生まれています。連続花園出場という中で、マンネリ化されていたものの、目をつむつてごまかしていたものもあります。このままでは決して良い風にはならないと感じています。

変わりゆく状況に対応すべく、また、逆に状況が変わっても、全国大会を目指すことで目を輝かせていたもので、10年連続という金字塔を立て、一区切りついた今、これまでとは違う新生萩商工ラグビー部を一から作っていききたいと思っています。

熱血教師の勧誘

昨年末の全国高校ラグビー大会で萩工業高校時代も含め県内初となる10年連続出場を果たした萩商工ラグビー部。そのラグビー部の指導者としてコーチを9年、監督となり4年、更に萩工業に赴任してくる前の大津高校では、5年連続花園出場と、自身の指導歴22年の中で実に16回教え子を花園へ導き、昨年は山口国体ラグビー競技・チーム山口の監督を務めるなど、北浦地区だけでなく県内のラグビーを牽引する指導者・石東正之さんにお話を聞きました。

私がラグビーと出会ったのは高校に入ってから。小学校、中学校と野球を続けていましたが、入学した大津高校には当時硬式野球部がなく、仲の良い中学野球部時代の友人たちと帰宅部でいるつもりでした。しかし、当時大津高校ラグビー部の顧問の先生が、私たち元野球部メンバーを何とかラグビー部に入学させようと、毎日下校時間に校門前で待ち伏せし、私たちをつかまえようとするのです。私たちはそれを逃れるべく、時間をずらしたり、裏門から帰ったりしていましたが、先生は諦めることなく、ついには教室までも来る

元明経中学校校長

斉藤 定さん

(萩市大井在住、79歳)

「歌会始」で佳作

川岸の茂みに

グーグル忘れられ

子らの短き

夏は終わりぬ

1月12日、皇居で新春恒例の宮中「歌会始」が行われ、お題「岸」をテーマに全国から集まった1万8000首の中から、入選10人、佳作19人が選ばれ、萩市大井在住の斉藤定さんの短歌が佳作を受賞しました。

子どもたちの必需品であったグーグルも今となっては川岸の茂みに置き去りにされたまま忘れられていく光景から、夏の短さを感じる様子を表現しています。

斉藤さんが短歌や俳句を始めたのは中学生の時、作った句を近所の古本屋の店主にほめてもらったことがきっかけで「句ができる度に古本屋に見せに行くのが楽しみになった」と言います。その後も句や歌を雑誌に応募して友だちと競うなど、学生時代は句作に没頭した日々を送りました。

高校を卒業し教職に就いてから



自費出版した短歌集「笑ふ猫」と俳句集「歌ふ猫」

は、俳句や短歌とは全く無縁に過ぎ、再び作り始めたのは定年退職後、1996(平成8)年頃からでした。何十年ものブランクがありながらも、「春風が小熊模様のカーテンと戯れながら部屋を窺う」が96年の国民文化祭短歌の部で入選、「さんざめくおぼろの夜の動物園 河馬は花びらぐわつと吸い込む」が2007年山口県短歌大会で県知事賞など、数々の大会で多数受賞されています。

02年に受賞作を集めた短歌集「笑ふ猫」を自費出版し、日本自費出版文化賞を受賞。08年に俳句集「歌ふ猫」を出版されています。

句作については、時間を決めず、いつでも思いついた時にメモに書き留める。中でも、車を走らせながら見る外の景色は、普段とは全く違った世界に見え、句や歌が浮かびやすいと言います。

歌会始の受賞について、「歌会

プロフィール

1932(昭和7)年旧阿武郡川上村(野戸呂)生まれ。51年山口農業高校卒業、56年山口大学文学部卒業後、教職に就く。一中・指月・明経中学校などに勤務。93(平成5)年の定年退職後は大井公民館館長、2004年からは大井ふる里愛好会会長に就任。

【参考】歌会始の応募方法

来年のお題は「立」。習字用半紙の半分にお題と短歌、半分に住所、氏名等を毛筆で記入、9月30日(消印有効)までに宮内庁へ郵送。

三輪壽雪さん102歳に

三輪壽雪さんは、重要無形文化財「萩焼」の保持者に認定された、現在最高齢の人間国宝です。

2月4日に元気に102歳を迎えられました。毎朝、新聞に目を通し、午後には家族の運転で市内や海沿いのドライブを楽しむことが日課となっています。気の向くままに萩焼の手びねりをしたり、書を書いたりされています。



三輪壽雪

萩博物館だより

(0838-256447)

藤田伝三郎翁生誕170年記念

日本の近代化を招いた

萩の産業人脈

～平成24年4月10日(火)



小坂鉦山事務所(秋田県)

関西財界のリーダー藤田伝三郎をはじめ、久原房之助、田村市郎、鮎川義介ら秋ゆかりの事業家たちの夢と情熱をかけた挑戦の軌跡を追う。

「志士」と「元勳」の書

一筆先ににじみでる人となり

4月21日(土)～6月24日(日)

◎年中無休

山口県立萩美術館・浦上記念館だより (0838-242400)

◆陶芸館展示

萩焼の人間国宝

三輪壽雪の鬼萩

3月25日(日)

休雪白 三輪休和と萩焼の革新

4月7日(土)～8月26日(日)

◎山口伝統工芸展

日本工芸会山口支部主催による

展示会です。波多野善蔵、岡田裕

野坂康起、納富晋、波多野英生、

止原伸郎、樋口大桂、兼田佳炎、

玉村登陽、野坂和左、厚東孝明、

岡田泰、松尾藻風の作品が展示さ

れます。

◆浮世絵展示

広重三代の世界 partⅢ 3月25日

江戸のグルメ 4月7日

◆東洋陶磁展示

高麗と朝鮮のやきもの 3月25日

東洋陶磁の美〈形〉 4月7日

■特別展示

アル・デコ 光のエレガンス

ルネ・ラリックやドームのランプ

4月28日(土)～6月17日(日)

■休館日 月曜日、展示替えのため3月26日～4月6日は休館

情報アラカルト

東北地区

■岡田裕 作陶展

3月20日(火・祝)～26日(月)
秋田市中通2・6・1
西武秋田店
(018・832・5111)

関東地区

■野坂和左 陶展

3月1日(木)～10日(土)
東京都文京区本郷5・28・1
ギャラリー愚^{ぐれい}伶
(03・5800・0806)

■陶12 兼田昌尚展

3月7日(水)～13日(火)
東京都中央区日本橋室町1・4・1
日本橋三越本店
(03・3241・3311)

■おいでませ山口館のイベント

○やまぐちの蔵元「山口和らぎ会」
蔵出しの新酒と萩焼
萩の八千代酒造(吉部) が出展。
萩焼の展示販売もあります。

3月5日(月)～10日(土) 午前10
時30分～午後7時

○萩の夏みかん・周防大島の柑橘
フェア

5月中旬

東京都中央区日本橋2・3・4日
本橋プラザビル1階 おいでませ

山口館(03・3722・3510)

■ふるさとの食につぼんの食 全 国フェスティバル

岸田商會が地ビールやポン酢等
を販売。
3月10日(土)～11日(日) 午前10
時～午後4時
東京都渋谷区神南2・2・1
NHK放送センター
(03・5455・4283)

■萩ガラス展示会

3月15日(木)～28日(水)
東京都世田谷区玉川3・17・1
高島屋玉川店5階特撰和食器売場
(03・3709・2222)

■萩ガラス製品「母の日」名入れ サービスイベント

4月1日(日)～30日(月・祝)
東京都豊島区西池袋1・1・25
東武百貨店池袋店
(03・3981・2211)

■岡田泰 作陶展

4月18日(水)～24日(火)
東京都中央区銀座4・6・16
銀座三越
(03・3562・1111)

■納富晋 作陶展

5月9日(水)～15日(火)
東京都千代田区丸の内1・6・4
丸善丸の内本店
(03・5288・8881)

■日本伝統工芸陶芸部会展

岡田裕の作品が展示されます。

5月23日(水)～28日(月)
※5月27日(日) 午後0時30分～
岡田裕「特別講座」
東京都中央区日本橋室町1・4・1
日本橋三越本店
(03・3241・3311)

■紀ノ国屋「萩・津和野フェア」

水揚げされたその日に届く新鮮
な魚介類や蒲鉾などの水産加工品、
夏みかんの商品などを販売。
5月23日(水)～29日(火)
紀ノ国屋7店舗(インターネットショ
ナル店、渋谷店、等々力店、吉祥
寺店、国立店、鎌倉店、ラスカ平
塚店)

■第2回「はぎっ子パーティー」

「東京で里帰り」をテーマに、萩
出身者や萩に興味のある方の交流
会。
6月9日(土) 午後5時～
東京都渋谷区神宮前5・53・67
コスモス青山ガーデンフロア
萩大志館・古村、申込はweb受付
<http://goo.gl/KeCxy>

■ふるさと萩・小川会

旧田万川町小川出身者で関東在
住者の同郷会。第20回記念の総会・
懇親会。
6月17日(日) 正午～午後3時
東京都荒川区東日暮里5・50・5
ホテルラングウッド
(090・9673・2296) 佐伯

■「わんの形」

金子司の作品が展示されます。
4月14日(土)～5月27日(日)
岐阜県多治見市本町5・9・1た
じみ創造館3F
多治見市文化工房ギャラリーヴォ
イス(0572・23・9901)

関西地区

■大阪指月会

関西地区の萩同窓会。
4月15日(日) 正午～午後3時
大阪市北区芝田2・4・53
大阪弥生会館
(077・567・1188) 伊藤

■岡田泰 作陶展

3月17日(土)～25日(日)
京都府長岡京市開田1・19・20
ギャラリー桃青長岡京本店
(075・957・5666)

■13世 坂高麗左衛門 襲名記念展

5月23日(水)～29日(火)
京都市下京区四条通河原町西入真
町52
高島屋京都店
(075・221・8811)

四国地区

■第58回 日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、岡田泰、玉村
登陽、波多野善蔵、松尾藻風の作
品が入選しました。

◆松山展 3月5日(月) まで

愛媛県松山市一番町3・1・1
三越松山店
(089・945・3111)

萩三高合同総会(関東)

4年に1度、萩高、商工高、
光塩学院の合同同窓会。
10月27日(土) 午後2時30分～
日本工業倶楽部

萩同郷会(関西)

4年に1度、関西在住の萩出
身者の同郷会。
11月4日(日) 午後2時～(予定)
大阪弥生会館

中国地区

■濱中孝子展(ジュエリー展)

5月19日(土)～30日(水)
島根県益田市西平原町862・4
Gallery & Cafe 草花舎
(0856・27・0592)

山口県関係

■厚東孝明 作陶展

3月6日(火) まで
山口市市中町3・3
井筒屋5階美術サロン
(083・902・1111)

■組み木2人展

萩市の組み木作家、守重シゲ子
(主の会主宰)と小黒三郎の展示。
3月15日(木)～21日(水)
山口市中央1・5・14
ギャラリー・ナカノ
(083・924・6648)

■濱中孝子展(ジュエリー展)

4月予定

周南市富田1丁目3・18
にちろ
日(0834・63・8738)

■兼田佳炎 作陶展

5月17日(木)〜22日(火)
周南市銀座2丁目14
近鉄松下百貨店

(0834・21・5000)

■山口伝統工芸展 巡回展

日本工芸会山口支部主催による
展覧会です。出品者は13ページ。

5月9日(水)〜14日(月)
下関市竹崎町4・4・10
下関大丸

(083・232・1111)

九州地区

新規(再)加入会員

北村すみえさん (大阪府豊中市)
岡田恭子さん (東京都世田谷区)
林博之さん (千葉県佐倉市)
高橋サナエさん (萩市)
松坂充基さん (千葉県柏市)
荻原久美子さん (東京都足立区)
野村富美恵さん (防府市)
岩崎為雄さん (兵庫県芦屋市)
福岡直樹さん (萩市)
静岡愛子さん (福岡県北九州市)
島田忠弘さん (広島県廿日市市)
橋本克己さん (下関市)
桑原敏子さん (萩市)
綿城ゆう子さん (萩市)
浅野紘臣さん (神奈川県藤沢市)
伊村千鶴子さん (萩市)
河内山秀雄さん (山口市)

■濱中史朗 個展(陶芸)

3月10日(土)〜20日(火・祝)
福岡市博多区三筑2丁目2・31
とどろき酒店

(092・571・6304)

萩市関係

■アートショップTAZZ企画展

○Love so Sweet

萩市在住2人のアクセサリー展。

3月7日(水)〜16日(金)

○「MAGAMAMA」陶芸・藤本剛

個展

4月6日(金)〜22日(日)

萩市東田町144

アートショップTAZZ

(0838・26・6020)

■藍場川の家ギャラリー

○石川日登美 陶芸シエードラン
ブ展

3月12日(月) まで

萩市川島294 藍場川の家

(0838・26・1536)

■星亮一 講演会

「東北は負けない」会津藩に学

ぶ復興の半世紀

3月15日(木)午後6時30分〜8時

会場 萩市民館小ホール

(問) 萩市企画課

(0838・25・3102)

■俣宿天十平の企画展

○ラファエロ・ナバス BAG &
布のオブジェ展

4月14日(土)〜22日(日)

萩市南古萩町33・5 俣宿天十平

(0838・26・6474)

■ヴィレッジコンサート

○近藤大地ソロ2012

リチャード・デイヴィス、ルイ

ス・ナッシュとのトリオで有名な

近藤大地が2年ぶりに登場。

4月22日(日) 午後7時〜

料金 3000円

萩市土原291・1 ヴィレッジ

(0838・25・6596)

■大屋窯SALE

5月1日(火)〜6日(日)

萩市椿905

大屋窯(0838・22・7141)

■富士通コンコードジャズフェス

ティバル2012

5月27日(日) 午後6時30分〜
阿武町町民センター文化ホール

全席指定8500円

出演 木住野佳子、山中千尋、片

倉真由子(3人のピアノ)、グレ

イト・アメリカン・ジャズ・オー

ケストラほか

(問) 阿武町町民センター

(0838・2・2044)

出版情報

■「家庭画報3月号」

「城下町・萩の雛めぐり」と題し、

「萩城下の古き雛たち」の各施設

の展示、「萩の宿 常茂恵」の雛御

膳など16ページにわたり紹介。

価格 1370円

出版社 世界文化社

■一坂太郎・道迫真吾編「吉田年

麻呂史料」

高杉晋作、久坂玄瑞と並び、吉

田松陰の門下で「三秀」と呼ばれ

た吉田稔麿の書簡や日記などがま

とめられています。300部の限

定販売。

価格 1万8000円

(問) マツノ書店

(0834・21・2195)

■「日経おとなのOFF3月号」

連載「誇りの地巡礼」で明治維

新源流の地で伝統と革新に出会う

としてTAKE Create Page(刀

柳勇社長、萩焼の坂窯、大屋窯



価格 680円
出版社 日経BP社

など6ページにわたり紹介。

■「ひととき2月号」

椿の特集の中で、笠山の椿群生

林やサン精機のツバキ油など6ペ

ージにわたり紹介。

価格 390円

出版社 株式会社ウェッジ

■「猫びより3月号」

動物写真家の岩谷光昭さんが萩

市を訪れ、萩の風景と猫や雲林寺

(むつみ)の招き猫など紹介。

価格 950円

出版社 日本出版社

■「ミセス4月号」(3月7日発売)

知られざる名品を紹介する「か

くれた味、うまい味」で渡辺有子

さん(料理研究家)のおすすめて

としてオイル・ルージュを紹介。

価格 1100円

出版社 文化出版局

プレゼント

萩のさしみ醤油ミニボトル詰め
合わせを3名様。

■応募方法

ハガキに品名、住所、氏名、電話

番号、近況等を明記のうえ、萩

ネットワーク協会プレゼント係ま

で。3月末日(消印有効)。

イベントカレンダー

萩市観光協会 ☎0838・25・1750

開催中～3月20日(火・祝)まで

◇萩・椿まつり

笠山椿群生林

開催中～4月3日(火)まで

◇萩城下の古き雛たち

旧久保田家住宅ほか

3月4日(日)

山口県漁協萩地方卸売市場

◇萩・しろ魚まつり

道の駅「萩しーまーと」

3月11日(日)

山口県漁協萩地方卸売市場

◇萩の真ふぐまつり

道の駅「萩しーまーと」

3月24日(土)

◇萩往還ワンデーウオーク 2012

萩往還

4月8日(日)

◇萩・春の魚まつり

道の駅「萩しーまーと」ほか

5月1日(火)～5日(土・祝)

◇萩焼まつり

萩市民体育館

5月3日(木・祝)～4日(金・祝)

◇萩・大茶会

萩城跡(指月公園)

5月19日(土)～20日(日)

◇萩・夏みかんまつり

かんきつ公園

旧田中別邸

5月20日(日)

◇浜崎伝建おたから博物館

浜崎地区

萩八景遊覧船

3月1日木～11月30日金
(萩城跡横指月橋)

日頃の萩観光では見ることのできない川と海からの自然や歴史的景観を満喫できます。11月まで運航。桜の開花時期には「桜鑑賞コース」を運航します。

萩・椿まつり

開催中～3月20日(火)まで
(笠山椿群生林)



約 25,000 本のやぶ椿が可憐な花を咲かせ、見る者を魅了します。週末には、椿見どころ案内人によるガイドや呈茶席など。

萩の真ふぐまつり

3月11日(日)
(山口県漁協萩地方卸売市場ほか)



「トラフグよりも旨い!」との声もある萩沖産の天然ふぐ「真ふぐ」が主役のグルメイベント。ふぐ刺しの無料試食やフグ鍋の販売など。

萩城下の古き雛たち

開催中～4月3日(火)まで
(旧久保田家住宅ほか)



萩市民によって受け継がれて来た、江戸時代から昭和までの歴史あるお雛さま約 1000 体を市内 11 か所で展示。

萩往還ワンデーウオーク 2012

3月24日(土)
(萩往還)



吉田松陰や高杉晋作などの維新の志士が駆け抜けたといわれる「萩往還」を歩くウォーキング大会。佐々並コース (20.3km) と明木コース (10.8km) の 2 コース。

建築界の巨匠が 遺した萩市民館



大きな戦艦のような屋根を持ち、明治維新をイメージした市民館。光の網による照明。

昨年12月26日、江戸東京博物館、九州国立博物館などを手がけた建築家、菊竹清訓さんが逝去されました(83歳)。

市民館は、明治維新100年の1968年(昭和43)に菊竹さんにより設計された、大きな戦艦のような屋根を持つ明治維新を象徴するコンセプトの建物で、その年の日本建築デザインベスト5に選ばれました。

菊竹さんからオファーを受け、市民館の大ホールとロビーの天井を約 3000 個の電球で演出した照明デザイナーの石井幹子さんは「萩市民館の中に光の網をかけ、電球のきらめきによる新しい空間を創りました。まさに建築空間を光によって変貌させる、私がやりたかったプロジェクトでした」と語り(自伝「光が照らす未来」から)、その後、東京タワーやレインボーブリッジなどを手がけています。

ダボス会議(世界経済フォーラム)に 金太郎「オイル・ルージュ・イタリアン」 が登場!!



オイル・ルージュ・イタリアンのびん詰め
(700円、5尾)



「金太郎バナナ」金太郎の甘味とバナナの酸味が口の中で絶妙に溶け合う。

1月25日～29日にスイスのジュネーブで行われた世界経済フォーラム(通称:ダボス会議)のジャパンナイトで、ふるさと萩食品協同組合の「オイル・ルージュ・イタリアン」(金太郎のオイル漬け)が使用されました。

萩で「金太郎」と親しまれている地魚、ヒメジ。フランス料理に用いられる高級魚「ルージュ」の近縁種で、日本では鮮魚での流通がほとんどない貴重な魚です。この金太郎をもっと知ってもらおうと、萩商工会議所が2年前に手がけたのがオイル・ルージュ、金太郎のオイル漬け。

オイル・ルージュ・イタリアンは道の駅「萩しーまーと」(0838・24・4937)、東京都内では「おいでませ山口館」(03・3502・3355)でお買い求めいただけます。